

# 笠間市地域おこし協力隊 活動報告

No. 15



▲妻の展覧会で料理のケータリングをやりました。こんな格好ですが、前職は料理人ではありません。

## 地域おこし協力隊に新メンバーが加わりました

- 氏名…友田 修(57歳) ●出身地…神奈川県横浜市
- 特技…料理(自家製のライ麦酵母でパンを焼きます)
- 好きな言葉…身土不二(スローフード、地産地消と同義語ですが、そういうライフスタイルは体に一番良いという意味が内在されている言葉だと思います。)
- メッセージ

食と器は切っても切れない関係です。当地の食材で料理をし、笠間焼の器に盛る、そういった活動をやりたいと思います。また、空き家が目立つ街並みを何とかしたいとも考えています。一人では何もできませんが、地域の皆さんの力と私のネットワークとこれまでの知見をミックスさせれば何か良い知恵が出るかもしれません。よろしくお願いします。



## 地域おこし協力隊とは

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住(最長3年)し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。笠間市では平成25年度から隊員を受け入れました。

ブログやフェイスブックもご覧ください

ブログ▶<http://ameblo.jp/kasamart-wa/> facebook▶<https://www.facebook.com/Kasamartowa>

【問合せ】まちづくり推進課(内線537)

## 笠間市協力交流研修員

### テイン★&ピンポ

## 日本での視察で感じたこと

10月2日(木)に栃木県益子町へ行ってきました。今回は、外国人観光客の視点で視察をするため、私たち2人のみで出かけました。

JR友部駅から下館駅へ電車で行き、真岡鐵道に乗り換えて、益子駅へ向かいました。益子町では、益子町観光協会、益子陶芸美術館、益子焼窯元共販センターをはじめ、まちなかを視察しました。

益子は陶芸のまちであり、また自然も豊かで笠間と共通するところが多いと思いました。帰りは、バス(関東やきものライナー)で笠間に戻りました。

日本での移動は、とても便利です。まず、電車の時間が、首都圏だけでなく地方でも正確なことに驚きました。バスも快適で、運転手は丁寧で親切です。私の母国ミャンマーでは、電車は首都圏しか整備されていないため、バスやタクシーも利用しますが、日本のように便利ではありません。外国人旅行客は、地方の観光施設にも興味があっても、交通網が十分に整備されていないため行けない方が多いようです。

また、日本は観光情報がインターネットですぐ入手でき、とても便利です。ミャンマーは、インターネットでの情報発信が広まりつつありますが、Wi-Fiの環境などが整っていない状況です。

日本は、便利だけでなく安全であり、すべてのクオリティが高いと感じました。 テイン リン アウン  
Htein Lin Aung



益子町観光協会にて

笠間市協力交流研修員▶ テイン リン アウンさん(ミャンマー内務省職員)とシーサワット ピンポさん(ラオス・ルアンパバーン州職員)の2名が観光行政を中心とした研修に取り組んでいます。